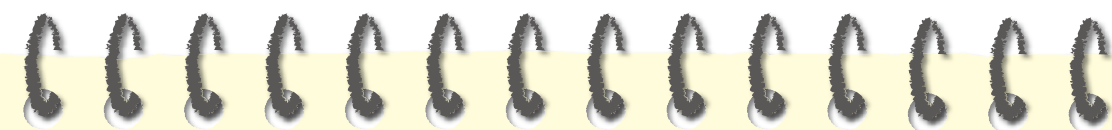




29歳男性。2000年（平成12年）11月、スポーツの試合中の事故による頭部外傷で四肢麻痺を呈されました。現在リクライニング車いすでの生活をされながら、週に1度、家人とリハにこられています。リハの中で随意性がわずかに保たれている右手を使って何か取り組めることがないかと、2年前から絵を描きはじめました。ご本人との意思疎通の難しさもありますが、

家人、介護士と協力しながら、どんな絵を描くか、ご本人の随意性を促しながら毎回楽しくリハができるようにと取り組んでいます。当初は意図した上肢活動では屈筋活動が強まり手を伸ばしにくい状態でしたが、次第に緩和され、表情の変化も少しずつ見られるようになり、リハに精を出しておられます。（担当PT：八石 明）



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



小川玉子「羽子板とうぐいす」

リウマチとなり、あまり手も動かなかったが、ネット手芸と出会い、毎日が楽しくなった。最初はわずかな物しかできなかったが、続けていくうちに手の込んだ作品をつくることができるようになり、一つの作品が完成するたびに感動した。みんなが見て楽しくなるような作品を、手が不自由ななりに、これからもつくっていきたい。（小川玉子）

小川様のネット手芸は今年で3年目。簡単な鉛筆立てから始め、ティッシュケース等、模様の難しい物に取り組めるようになり、現在はネット手芸のカレンダー用に12カ月分のモチーフをつくることに取り組まれている。（担当OT：徳若・川畑）